

「新入生闘委」が結成

13日 和泉で一年生討論集会

五月十三日(土)午後、和泉校舎三〇大教室で、「一年生クラス闘争委員会準備会連絡会議」主催による「一年生討論集会」が開催された。この討論会は五〇名を超え、新入生が参加し、「新闘委」

と書かれたヘルメット数個が前列に懸けられていた。安達文幸君(法一年)の討論会主催説明から始まり、全明共闘議長岡口成一君(商四)から明大闘争の経緯報告が行われた。そ

の後、討論に移った。

この討論会は、「大学そのものが社会から鋭く問い返されている現状、自らの思想性と能動性によって真の社会をみつける社会に働きかけねばならない。その初歩的、かつ根本的な討論を全学に起こし自らを實踐の中で階級形成してゆく」ものとして設定された。何故、大学に入学したのか、大

学とは何か、と問うた自らの存在に対する問いかけを行なう中から、自らの闘争主体を確立し、よりという闘争が提起され、長時間にわたって熱心に討論が続けられた。そして、午後五時すぎ、「新入生闘争委員会」を十四、五人で結成したが、この闘争委員会はアシチ・セクトではないことを確認した。